

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲の向上や進路希望の実現のために教育課程の見直しや組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②ICTの利活用を促進することにより、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。</p>	<p>①教育課程が、生徒の実態とニーズに合っているか、進路希望の実現に対応しているか検証する。</p> <p>②ICT利活用授業研究推進校として、組織的な授業改善と効果的なICTの利用方法を模索する。</p>	<p>①教育課程が生徒の実態とニーズに合っているかを検証し、必要があれば見直しをおこなっていく。</p> <p>②ICTの特性を生かし、生徒による授業評価の「学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の項目の学校平均値3.2を目指す。</p>	<p>①生徒が日々の授業に知的好奇心を持って取り組んだか。また学習が主体的・対話的で深い学びとなったか。アンケート等を用いて確認する。</p> <p>②生徒による授業評価の「学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の学校平均値3.2を達成できたか。</p>	<p>①教育課程について、想定される必要な選択科目を設定し、生徒が不利益にならないように配慮をして実施した。1月に教育課程アンケートを実施し、今年度も大きな課題は上がらなかった。</p> <p>②組織的な授業改善への取り組み及びICT利活用授業研究推進校として11/7(金)に、「使用可能なアプリケーションやAIの活用」を目指した7教科の公開研究授業を実施した。なお、実施に先立ち教科会を行ったり、AI活用に向けた専門家による研修会を行うなど意欲的に取り組むことができた。生徒による授業評価の対象項目の数値は3.25であった。</p> <p>③11/18(火)より各HR教室に75インチの電子黒板が設置され、活用が進んでいる。</p>	<p>①一部の生徒の受験科目に必要なとされる論理・表現Ⅲや数学Ⅲ、数学Bについては、選択科目を設定して対応できる限り対応していく。学校事情で選択科目の設置ができない場合は、放課後に補習や講習を行うことで個別に対応したいと考える。</p> <p>②組織的な授業改善、ICT利活用の取り組みは研究指定を受けていることもあるが引き続き続けていく必要がある。また、生徒による授業評価の内容を分析し、授業改善に取り組んでいきたい。</p> <p>③電子黒板は大画面で視認性もよく使いやすい。教員が使い慣れているグループクロームが内蔵されているので既に活用が進んでいるが、さらに有効活用するため研修等をしていきたい。</p>	<p>①アンケートの中で教科の学習に「むずかしすぎる」「興味をもてなかった」と回答している生徒が多い。高1の壁を感じている生徒が多いと判断できる。より丁寧な指導が必要である。</p> <p>②導入などに視覚からの情報があると生徒も理解しやすいが、書くことも重要である。「考えるためにICTを活用する」というスタンスで取り組む必要がある。</p> <p>③電子黒板の利活用と共にノートの有効な活用方法も重要である。ICTとアナログの良い部分をバランスよく取り入れる工夫が必要である。</p>	<p>①職員、全校生徒、3年保護者に調査を依頼し、大きな課題は上がらなかったが、学習の質や進め方について丁寧に対応していくことが求められる。</p> <p>②ICT利活用を推進していくための努力をし、成果を挙げることができたが、世界の潮流はICTとアナログのバランスよい活用である。ICTの活用と共に黒板やノートのバランスよい活用も進めたい。</p> <p>③電子黒板の操作方法を更に周知していくとともに、アナログ教具とのバランスよい活用を目指したい。</p>	<p>①課題把握のための調査の実施と把握した課題への迅速な対応を行う。</p> <p>②授業改善の目標に、ICT利活用と共に黒板やノートの有効活用も掲げていきたい。また、生徒による授業評価等で評価の高い教員の授業を見学する機会を設けたい。</p> <p>③電子黒板をうまく活用している教員の授業を見学する機会を設けるなどしたい。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①高い人権意識と幅広い視野を持った生徒を育成するため、教育活動の中に自己肯定感を育む機会を多く取り入れ、生徒の自主性や積極性を高めるとともに、他者との協働による成長を支援する。</p> <p>②教育相談システムの活用を促進し、心の健康と安心・安全な学校生活を実現するとともに生徒の自己解決力の育成を支援する。</p>	<p>①学校行事や生徒会活動に参加する中で、生徒同士が自己や他者を認め、協力しながら目標を達成していく力を育成する。</p> <p>②より誰にでも相談しやすい環境を整えたり、生徒教員向け各種研修会を行うことで、生徒自身が自身の問題に対し解決するために行動できる力を育成する。</p>	<p>①生徒が主体となって行事運営ができるよう、委員会活動を充実させ、生徒間での話し合いが積極的になされるようサポートする。</p> <p>②生徒向け研修会および教員向け研修会を行い、それぞれが対応する力を身に付ける機会を設ける。</p> <p>③面談期間を有効活用し、生徒の悩み等の早期発見を行う。場合によっては、SC等と連携する。</p>	<p>①学校行事や部活動において生徒が主体的に参加することができたか。LHRと委員会間の意見交換ができ、効果的に話し合いがもたれたか。アンケート等を用いて確認する。</p> <p>②生徒の実態に合わせた研修会を行うことができたか。</p> <p>③SC等を活用し、生徒が抱える問題の解決につなげることができたか。</p>	<p>①各行事において、実行委員会を中心とした生徒の積極的な参加をみとめることができた。クラス内での話し合いを重ね、協力し合って行事を作り上げる土壌ができてきたといえる。</p> <p>②各種研修会を行い、生徒の意識啓発に繋がられた。面談の実施やSCおよびSSWによる支援体制、担任に限らない教員の相談窓口体制により、生徒が抱える問題の早期発見ができ、各機関との連携がよりよく行えた。</p>	<p>①行事後のアンケートや目安箱の運用を工夫し、生徒が主体的に生徒会活動を行えるよう支援する。また、より多くの生徒が、各行事や部活動において自分の目標や役割を明確にもつことができれば、丁寧な指導を行っていく。</p> <p>②よりスピーディな支援体制を構築するために、校内の相談体制に加え、外部の機関との連携をより充実させていく必要がある。教職員の支援スキルや外部との連携に関する知識を身に付け、現代の生徒に合わせた生徒支援ができるように研修等を行いたい。また、いじめの未然防止に引き続き取り組む。</p>	<p>①意見をまとめたり、様々な経験をしたりといった機会をもつことが、将来社会で役立つ力を培うことになる。引き続き、丁寧に指導してもらいたい。</p> <p>②引き続き生徒に寄り添い、生徒の気持ちの引き出しや支援をしていただきたい。先生方のスキルアップや教育相談体制のさらなる充実も期待している。</p>	<p>①多くの生徒が、各行事に積極的に参加することができた。今後、行事後アンケートの質問事項を精査し、生徒の声をより広く活かした行事運営を行いたい。また、他者と協力し目標を達成していける機会を多く設定する。</p> <p>②教員による面談やSCおよびSSWによる相談を活用して、生徒の状況把握や問題の早期解消にむけた支援ができた。また、各種研修の定期的な実施により、生徒自身がよく考える機会を設けることができた。</p>	<p>①生徒が主体的に生徒会活動を行えるよう、アンケートでの声を活かしていく。また、適切な目標設定を支援し、他者と協力する中で自己肯定感を養う機会とする。</p> <p>②各種研修においては、より生徒にあった講師および内容を厳選し、生徒にとってさらに効果的な研修の実施を行う。また、教育相談体制のさらなる充実を目指し、連携体制の強化と支援機関の拡充をする。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①社会情勢の変化に応じて多様化する進路について外部機関と連携し、進路情報を収集・評価・提供し、生徒の進路実現につなげる。</p> <p>②3年間を見通したキャリア教育となるよう、各年次、各時期に行うべきキャリア教育を精査し、幅広い知識と判断力を育成し、自己のキャリア形成を支援する。</p>	<p>①受験科目の変更を調査するとともに、大学などと連携をし迅速に科目変更などの情報をとりいれ、外部機関からも情報を収集する。また、企業研究・地元探求などを通して、社会情勢を学ぶ機会を設定する。</p> <p>②キャリア教育計画を視覚的に明確なものとし、共有する。</p>	<p>①総合的な探究の時間での取り組み、外部機関の提供情報などを精査し、教職員で共有するとともに生徒に必要な情報を周知する。</p> <p>②キャリア教育計画を表や図で表し、周知する。</p>	<p>①生徒が進路活動において、受験科目を把握することができたか。また、企業研究・地元探究などを実施し、発表することができたか。</p> <p>②キャリア教育計画を表や図で表し、周知することができたか。</p>	<p>①各進路に必要な科目が明らかになり、教育課程での現状での問題は上がらなかった。また、企業研究・地元探究を実施することができた。また、外部機関と連携しながら進路情報を共有することで大学進学が去年より5%上昇し52%となった。</p> <p>②キャリア教育実践プログラムを表として周知することができ、来年度の総合的な探究の時間の内容を考える一助とした。</p>	<p>①大学入試の変化が目まぐるしくなっており、今回は教育課程上での問題は上がらなかったが、今後も調査に力を入れる必要がある。企業研究・地元探究の内容を今後の進路活動の中につなげていく必要がある。</p> <p>②キャリア教育実践プログラムを表として周知したが、本校では総合的な探究の時間の内容は各学年の担当に任されている。総合的な探究の時間の内容が進路に関わる時代になっているため、確認の時期は早めにする必要がある。</p>	<p>①大学入試形態の変化に迅速に対応しようとする姿勢は評価できる。生徒が困らないように引き続き課題の発見と素早い対応をお願いしたい。</p> <p>②総合的な探究の時間については、学校や学年で組織的な取り組みにより、より成果が上がるよう、さらなる検討と改善をお願いしたい。</p>	<p>①各進路に必要な科目が明らかになり、教育課程での現状での問題は上がらなかった。しかし、企業や大学等も様々に条件や基準を変更するので、状況の把握と変化への迅速な対応や的確な生徒への指導が求められている。</p> <p>②キャリア教育実践プログラムを周知することができ、来年度の総合的な探究の時間の内容を考える一助とできたが、大学入試における「総合的な探究」の重要度は増しており、さらに積極的に取り組む必要がある。</p>	<p>①引き続き、キャリア支援 G 内で役割分担と複数確認体制を確認し、提供された情報を確実に把握し、生徒に提供できるようにする。</p> <p>②秦野・伊勢原地域の他校状況も把握しながら、本校の「総合的な探究」の内容を確立していく。</p>
4	地域等との協働	<p>①保護者や地域から信頼される学校運営のため、地域に参加し貢献する機会を増やす。</p> <p>②学校運営協議会を活用し、教育内容の充実を図るとともに、広報活動を充実させ、学校外への発信や教育活動の共有を推進する。</p>	<p>①地域貢献活動以外にも、地域と交流する機会を作り、地域との信頼関係を築くとともに社会性を養う。</p> <p>②生徒中心の学校説明会の充実とHPの内容の充実を図る。</p>	<p>①生徒会・委員会・部活動に所属する生徒等と地域との交流について考える場を作り、清掃活動以外の交流を行う。</p> <p>②生徒中心の学校説明会を充実するとともにさまざまな機会を通じて本校の魅力を発信する。</p>	<p>①清掃活動以外にも地域に貢献する活動や地域と交流する活動ができ、その活動を通して地域との信頼関係を作り、社会性を育むことができたか。</p> <p>②生徒主体の学校説明会ができたか。また、一般入試の志願倍率が1.1倍(志願変更前)を超えたか。</p>	<p>①清掃活動に加え、道灌祭り等の地域行事に参加したり協力したりすることができた。生徒自身に地域に対してどのような貢献活動ができるか考える機会を作ることができた。</p> <p>②今年度も生徒会や国際生徒による学校説明会を実施した。参加者数は高倍率であった昨年度を若干下回るが、約850家庭、1800名の参加をいただいた。入学者選抜の志願変更前倍率は1.13倍であった。(最終倍率1.12倍)</p> <p>②HPのブログ「Today's いせはら」や各部活動の活動状況なども頻繁に更新されている。</p>	<p>①生徒が考えた地域に貢献できる活動の一つでも多く実現できるよう、各部活動や委員会、学年等で準備・実施していきたい。</p> <p>②評価の観点に挙げている基準は達成しているが、昨年度と比較して志願倍率が大きく低下している。修学支援金の拡充など要因は様々であるが、志願倍率の向上に向けて新たな視点を取り入れた広報活動を検討していきたい。</p> <p>②神奈川県HP編集アプリ「CMS」の研修に職員を派遣し、本校サイトの整理を進めたい。</p>	<p>①生徒自身が考えた地域貢献の形を模索していることは大変評価できる。</p> <p>②学校説明会の内容には、学校側の視点だけではなく生徒の視点も取り入れられていて評価できる。生徒も意欲的に取り組んでいるようなので引き続きお願いしたい。</p> <p>②生徒が原稿を書くブログなど、引き続き積極的な学校情報の発信をお願いしたい。</p>	<p>①清掃活動や各種イベントの手伝い等を通して地域と関り、地域の一員である意識を感じるきっかけとなった。地域貢献活動としてできることを生徒自身が考えられた。</p> <p>②志願倍率の数値目標は達成できたが、数値が大きく低下した。回復に向けて新たな視点を取り入れた学校説明会を検討していきたい。</p> <p>②更なるHP更新活性化のため、HP更新研修の実施を検討したい。</p>	<p>①今まで行っていた活動を継続しながら、生徒自身が考えた地域貢献活動を実現していく。</p> <p>②学校説明会の参加者アンケートや新入生の意見を取り入れ、新たな内容を盛り込んでいく。</p> <p>②県のHP編集アプリ研修に参加し校内研修をする。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①教育公務員としての綱紀の保持や意識向上を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。ICTを用いて組織的なチェック体制を整える。</p> <p>②避難所に指定されている意識を持ち、地域と協力して防災活動を行い、有事の際は、避難所としての機能を果たすため、生徒の防災意識の向上を図る。</p>	<p>①事故・不祥事の未然防止のため、ICTを活用したアンケートを実施し、多くの職員の回答率、正答率を高める。</p> <p>②災害発生時にスムーズな対応や行動がとれるように地域と連携して、広域避難所としての防災意識を高める。</p>	<p>①ICTを活用したアンケートを実施し、職員が回答するように学年会などで呼びかける。また、正答率を上げるよう、管理職と協力し事故不祥事防止の徹底に努める。</p> <p>②地域との避難訓練運営会議などの内容を、ICTを活用し、教員間で共有を徹底する。地域の防災課題を踏まえ、万が一の有事の際に一人ひとりが行うべきことを自覚する。</p>	<p>①事故不祥事アンケートの回答率が毎回80%を超えることができたか。また、正答率が昨年度を上回ったか。</p> <p>②避難所訓練会議での内容を踏まえ、本校が有事の際に行うべきことや備えにおける教員に対する研修や生徒に対する教育を行うことができたか。</p>	<p>①事故不祥事アンケートの回答率は、80%を超えている。アンケートの内容が記述式で回答になったものもあり、職員が事故不祥事防止に対して意欲的に取り組んだといえる。正答率は、昨年度を上回っていた。</p> <p>②VRを使用したDIG研修は生徒に好評であったので日程の調整がつけば、来年度以降も続けていきたい。防災避難訓練を実施したことにより、職員、生徒の防災意識は向上している。</p>	<p>①今後も回答率を高められるようICTを利用し、アンケート実施への声掛けをしていく。また、正答率90%以上を目指し正答率が低い問題には、職員会議などで捕捉し、引き続き事故防止にかかる知識の習得や事故防止意識の向上を目指していく。</p> <p>②DIG研修の生徒参加者が増えるよう実施日程など早めに周知していく必要がある。防災避難訓練については、実施形態を見直し、どのような訓練が、防災技能や防災意識の向上に繋がるのか、地域の方と協力し、防災避難訓練が実施できるか、来年度検討する必要がある。</p>	<p>①今後も事故不祥事が神奈川県全体でなくなるように学校として取り組みをお願いしたい。</p> <p>②生徒が主体となって、より一層防災意識が向上するよう学校での取り組みを工夫してほしい。</p>	<p>①今年度、伊勢原高校は事故不祥事が起きなかった。神奈川県全体では、事故不祥事が起きているので、職員一人ひとりが事故不祥事を起こさないよう啓発活動を行いたい。</p> <p>②来年度もDIG研修を継続し、生徒が主体となって防災意識が高まるよう工夫していきたい。</p>	<p>①事故不祥事について、本校だけでなく、他校と連携して、神奈川県全体で、事故不祥事が防止できるよう努めていく必要がある。</p> <p>②本校で行う防災訓練も生徒が主体的になるよう生徒支援 G と協力して、計画立案していきたい。</p>